

平成22年度 府立鳥羽高等学校 学校経営計画（スモールステッププラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点(短期経営目標)
<p>授業を大切に、生徒の能力を3年間で最大限に伸ばして、進路を保障する。 そのために、「HUMANITY（人間性）」「PIONEER SPIRIT（先駆者精神）」「SELF COMMAND（克己）」を全ての教育活動の基本とし、社会や家庭等から期待される人材育成を図る存在感のある学校となるよう、知・徳・体のバランスを配慮した高次元の「文武両道」を志向し、進取の精神にあふれる教育活動を生徒と教職員が一体となって展開する</p> <p>評価基準 4 十分達成できている。 3 ほぼ達成できている。 2 達成できているとはいえない。 1 ほとんど達成できていない。</p>	<p>昨年度は、鳥羽高校の新たな四半世紀のスタートにあたり、PDCAサイクルを通じた学校評価システムに基づき、「人間性・先駆者精神・克己」の教育方針の具現化を図る取り組みを着実に進展させるとともに、分掌や教科毎の取り組みを学校全体の視点から点検・強化し、本年度に向けた組織の整備を図ることができた。</p> <p>本年度、新たに提示したミッションステートメントの具現化に向けて、学力向上フロンティア事業等の取り組みを積極的に推進するために、分掌や教科のより積極的で組織的な連携・協働が求められるところである。</p> <p>鳥羽高校の教育活動のさらなる充実・発展に向けて、保護者や地域と緊密な連携を図りながら教育の質をさらに高め、地域に開かれ、地域から信頼され、期待される学校づくりを一層積極的に推進していく必要がある。</p>	<p>あらゆる教育活動を通して、「人間性・先駆者精神・克己」の教育方針の具現化を図るとともに、生徒及び保護者から信頼され、地域から期待され、中学生から選ばれる学校づくりを強力に推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。</p> <p>①学習と部活動等の高次元での両立による府内・全国への「文武両道」の強力な発信 ②類・類型の充実強化と思考力の向上を核とする授業改善等による確かな学力の育成 ③二輪車の事故防止等交通安全指導の徹底による自他の安全に貢献できる態度の育成 ④海外勤務者帰国子女、中国帰国孤児子女等、特別な支援が必要な生徒の教育の保障 ⑤分掌や教科の積極的で組織的な連携・協働体制の確立による教職員の指導力の向上 ⑥保護者・地域及び校種間の連携の強化による信頼され期待される学校づくりの推進</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	年間評価		成果と課題
組織・運営	ミッションステートメントの具現化を図る。	各種会議や教科主任会議を通して、ミッションステートメントの具現化に対する計画的な取り組みを行う。	3	3	3
	学力向上フロンティア事業の取り組みを推進する。	分掌や教科の連携・協働を図り、学力向上フロンティア事業の取り組みを推進する。	3	3	
	改編された分掌の機能強化と分掌間の連携を図る。	学校経営計画に基づき、各分掌が明確なビジョンを示し、学期ごとに進行管理を行う。	3	3	
学習指導	より効果的な学期制について研究する。	年間行事計画を工夫し、授業時数を確保する。	3	3	3
		長期的な見通しの下に学習に取り組みせると共に家庭での学習習慣の定着を図る。	3		
		各種行事の実施時期を検討し、定期考査を中心とする授業計画がスムーズに実施できるような学期制を検討する。	3		
	教科の指導力向上を図る。	シラバスを作成し、初期指導の充実並びに活用の徹底を図りながら定期的な進行管理・検証を行う。	3	3	
		教科会議において指導内容や指導方法について研究協議を行う。	3		
		研究授業週間を活用し、新しい教育課程に対応した授業改善を図るとともに、教科間の実践交流を一層深める。	3		
		1・2年生を対象にして、学習状況調査を実施し、学力との相関等をきめ細かく分析する。	3		
生徒指導	教職員の共通理解を深め、一致した指導体制を確立し、落ち着いた学校環境づくりに努める。	思考力を高める授業の研究を推進し、授業改善のための提言や資料の提供を行う。	3	3	
		全校生徒が参加する思考力コンテストを企画・実施し、定期的な通信「ROSEAU PENSANT（ロゾ・パンセ）」の発行を通して「考える」習慣の定着を図る。	3		
		校内における規律を重視し、安易な妥協を排除した説得力のある教育信念に基づく指導に努める。	3		
	望ましい集団活動をととして存在感、充実感のある学校生活を送らせるとともに、リーダーの育成を図る。	服装・頭髪・あいさつ・言葉遣い等の具体的な指導項目について、全教職員が目的・方法・規準において一致した指導を徹底して行う。	3		3
四ない運動の徹底を図るとともに、年間を通して校門指導と学校周辺の交差点での交通安全指導を実施し、生徒指導部・担任・教科担当者の連携を通して、遅刻と事故の防止に努める。		3			
生徒会が学校生活の充実・改善や諸課題の解決に主体的に取り組むよう活性化を図る。		3			
生徒指導	望ましい集団活動をととして存在感、充実感のある学校生活を送らせるとともに、リーダーの育成を図る。	文化祭等の各行事を通して、生徒の自主性・自発性の伸長を図る。	3	3	
		部顧問・担任・教科担当者の連携指導を通して「文武両道」を推進する。	3		

評価領域	重点目標	具体的方策	年間評価			成果と課題
進路指導	進路希望の実現を図る。	生徒一人ひとりが自らの適性と可能性を最大限に生かした進路実現を果たせるように、ガイダンスの機能を充実させる。併せて、面接・小論文指導等の個別指導を一層充実させる。	3	3	3	
		諸検査（スタディ・サポート、模擬試験等）のデータを多角的に分析し、それらを有効に活用して、類・類型および個に応じた的確な進路指導を行う。特に、国公立大学・難関私立大学突破に向けた指導を低学年時より組織的に展開する。	3			
		就職希望者全員の内定を達成するために、関係諸機関との緊密な連携を図る。	4			
	学力の向上を図る	各教科と協力して進学補習や学習合宿を充実、発展させ、生徒の学力向上を図る。	3	3		
		学力検討会や進路検討会を通じて、生徒の学力実態と強化すべき課題を明らかにし、教科にフィードバックすることにより、教員の教科指導力の向上を図る。また、国公立大学・難関私立大学に合格する生徒を育成するために、特進会議を主催し、特進担当、教科、ホームルーム担任の連携を密にした指導を強化する。	3			
		就職希望者に対しては、就職対策講座等を通じて基礎学力の向上を図る。	3			
国際・人権	生徒が人権問題を自らの生き方の問題として捉える態度を育てる。そのために人権教育についての教職員の認識の深化と指導力の向上を図る。	3年間を見通した系統的な人権学習を各学年、年2回実施するとともに、人権便りを定期的に発行する。	3	3	3	
		教職員の人権意識の高揚と指導力向上を図るための研修を行う。	3			
	帰国子女（海外・中国）受入校として国際理解教育の推進を図る。	帰国子女に対する行き届いた指導及び全校生徒への幅広い国際理解教育を行う。	3	3		
		帰国子女の学力や生活状況を把握し、関係教職員の共通理解を図る。さらに、家庭と連携し、個々の課題に即したきめ細かな指導を行う。	3			
特別支援教育	ノーマライゼーションの考えに基づいて、必要な学校環境作りを進める。	障害のある生徒の教育的ニーズに応じ、障害による学習上、生活上の困難の改善・克服を図る。	3	3	3	
健康・安全教育	心身の健康に対する科学的認識を深め、望ましい生活習慣を確立させる。	健康診断の事前事後の指導を通じて生徒の健康への興味関心を高めると共に、健康に関する指導の充実を図る。	3	3	3	
		性に関する講演会や救急法講習会を実施して、科学的・系統的・組織的に健康教育を推進する。	3			
		学校生活に不適應を生じた生徒について関係教職員及びスクールカウンセラーと協議し、その指導法の確立を図る。	3			
		生徒保健委員会活動を活発化させ、生徒の保健活動に関する意識を高める。	3			
	心身の健康を支えるために必要な学校環境作りを進める。	自主的に清掃する態度を身につけさせる。	3	3		
		大掃除・屋外清掃・美化週間などを実施して効果的に校内美化を図る。	3			
		環境衛生検査・安全点検を的確に実施し、不良箇所の改善に努める。	3			
		生徒整備委員会活動を活発化させ、生徒の美化意識の向上を図る。	3			
図書館教育	図書館の利用を促進し、学力の基盤としての読書力の育成に努め、学習意欲と学力の向上を図る。	新1年生対象の図書館オリエンテーションを更に充実させる。	3	3	3	
		「図書館便り」「らいぶらりいにゅーす」を定期的に発行する。	3			
		国語科と密接に協力して、読書感想文集を発行し、生徒の読書習慣確立を図る。	3			
	マルチメディア時代の図書館の意義や展望を視野に入れながら、生徒の読書環境を向上させる。	図書館内の生徒用コンピュータを稼働させ、調べ学習等で活用させる。	3	3		
各教科や他分掌との連携を密にし、蔵書の種類と冊数のバランスを考慮した適切な拡充を行う。	3					
家庭・地域社会との連携	家庭・地域・社会との連携を図り、相互の情報交換を行う。	PTA活動を通じて保護者と教職員が連携を図り、生徒の健全な育成を図る。	3	3	3	
		地域の中学校との円滑な連携を図る。	3			
		説明会や出版物、HP等を通じ本校の教育活動に関して幅広く積極的な広報活動を行う。	3			

評価領域	重点目標	具体的方策	年間評価		成果と課題
研究・研修	学校組織としての教育力や教科指導力の向上に向けた研修を充実させる。	研究授業週間を実施し、思考力を育成する研究授業を行い、教科指導力の向上を図る。	3	3	
		課題解決に向けた校内研修・センター研修を計画的・組織的に実施・参加する。	3		
学習環境・安全	学校の危機管理について、緊急時に適切な行動がとれよう日頃から教職員の共通理解を図る。	学校の危機管理マニュアルについて、全教職員に周知し、その内容の理解を深める。	3	3	
		不審者の侵入を未然に防止するための対策を講じ、不審者の侵入・火災・地震等を想定した防犯・防災訓練を生徒を含めて実施する。	3		
		対外試合等による来校者に対して、ゴミ処理・駐車・アイドリング等に関する協力依頼を徹底して行う。	3		
	併設する定時制との連携を密にする。	全・定合同の会議等の定期的実施や双方の具体的指導に対する相互理解等、日常的連携に努める。	3	3	
文書・情報管理	通知・通達文書等の周知と各種情報の共有化を図る。	通知・通達等、周知を要する文書、報告等は速やかに伝達する。	3	3	
		校内外で得られた必要な情報は、管理を徹底しながら教職員間で共有し、教科・分掌で積極的に活用する。	3		
	個人情報の適切な管理を徹底する。	個人情報の重要性を教職員が認識すると共に、情報の管理を徹底する。	3	3	
第1学年	学力の向上と進路指導の充実を図る。	生徒の学習に対する興味と関心を高めるとともに、自ら主体的に学ぶ態度を養う。	3	3	
		生徒が自己の能力・適性、興味・関心などを把握し、目的意識を明確化できるよう進路指導を充実させる。	3		
		面談・進路相談等の効果的な運用を図り、個に応じた進路指導を行う。	3		
	バランスのとれた豊かな人間性を育成する。	ホームルーム活動・学校行事等を通じて生徒相互及び生徒と教職員の交流を深め、他者を思いやる心をはぐくみ、信頼関係に基づく人間関係の育成に努める。	3	3	
		国際理解、人権教育を通じて自他の生命や人権の尊重を基盤とした正しい判断力と実践力の育成を図る。	3		
		総合的な学習の時間を活用し、自らの在り方生き方について見つめさせ社会の一員としての自覚を促す。	3		
主体的な規律ある生活の確立と社会的資質・能力・態度の育成を図る。	学校や社会のルールを守ることの意義についてホームルーム活動や学校行事等を通じて考えさせ、生徒の規範意識の醸成を図る。	3	3		
	家庭との連携を深め、生徒の主体的な規律ある生活習慣の確立を図る。	3			
第2学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	健康状態、服装・頭髪等の変化、遅刻・欠席過多傾向、問題行動等への迅速な対応を図る。	3	3	
		進路補習、土曜自習会、模擬テストへの積極的な参加を促す。	3		
	学力の向上と進路目標の設定を目指す。	面談、進路HRの効果的な運用を図る。	3	3	
		国際理解、人権学習を軸に、高校生としての人権意識を育成する。	3		
バランスのとれた人間性の涵養を目指す。	HR活動・課外活動を通じて、できるだけ多くの生徒同士が交流できる機会を設け、他を尊重する意識を育てる。	3	3		
第3学年	最上級学年として、下級生の模範となるよう指導に努める。	生徒指導部と連携し、基本的な生活習慣の確立を図る。	3	3	
		学校行事やHR活動を通じて生徒間の理解と親睦を図る。	3		
		バランスのとれた人間性の涵養を目指す。	3		
	全生徒の進路確保に努める。	希望進路達成率100%を目指す。	3	3	
		進路指導部・教科との連携を図り、生徒の学力向上を図る。	3		
		放課後・長期休業中の自学自習のため、自習室の環境を整える。	3		
		個別面談、三者面談の効果的な運用を図り、個に応じた進路指導を行う。	3		